

「社会で活躍するために必要な能力」 テストの開発

ベネッセ教育研究開発センター高等教育研究所 研究員

中島功滋 (なかじま こうじ)

『こどもちゃれんじ』や『進研ゼミ・進研模試』でベネッセをご存知の方が多いと思いますが、私が所属するベネッセ高等教育研究所では社会人として活躍するために必要な能力を測るテスト（アセスメント）の研究開発を行っています。

開発のプロセスを紹介しますと、まず、どのような能力が必要と考えられているかを、過去の調査研究および専門家や企業へのヒアリングを元に検討し、テストで測定する能力を明確にします。次に、その能力をどのような方法や形式で測定するかを検討し、テスト項目（設問や選択肢）を作成します。さらに、百人～千人規模でテストモニターを募り、各項目が「ものさし」として有効に機能しているかを解答データを分析して確認します。項目反応理論に基づくテストを作成する場合、分析の結果多くの項目がお蔵入りすることもあります。このようにしてテストが完成すると、具体的な商品化に向けた検討プロセスに移ります。

開発メンバーとして感じることは、上の開発プロセスは心理学の研究手続きとかなり類似しているということです。先行研究のレビュー、質問紙や実験材料の作成、調査計画や実験計画に基づくデータの収集、データの統計解析結果に基づく議論というように、心理学のカリキュラムで実践するであ

ろう内容が一通り詰まっています。もちろん企業の開発ですので、全てを一人で行うわけではなく、分業とそれぞれの成果を共有する体制が確立しています。また、各プロセスにおいて社内外の専門家や他の企業の協力を仰ぐことも多いです。

もう一つお伝えしたいことは、教科教材や入試対策問題の開発では教科のカリキュラムや過去問題等が参考になりますが、この種的能力テストではそれに相当するものがほとんど存在せず、ベネッセの従来体制では開発が困難だったということです。このような状況で、課題解決力や批判的思考力のテスト開発では、能力定義や項目作成のプロセスで京都大学の子安増生先生、楠見孝先生、琉球大学の道田泰司先生をはじめとする、認知心理学や教育心理学の先生方に大変お世話になりました。テストの妥当性を高めるうえで、心理学の知見に基づく先生方のアドバイスは欠かせないものでした。

テストの内容を一部紹介しますと、批判的思考力のテストでは、データの適切な解釈や主張の根拠の確かさに関する設問等が含まれています。テスト自体は心理学の知識があれば正答できるというのではなく、特定の学問分野の知識の有無が結果に影響しないように留意して作成されています。ただ、個人的希望として、心理学を

Profile — 中島功滋

北海道大学文学部行動科学科卒業。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程満期退学。同大学 21 世紀 COE 技術補佐員、淑徳大学非常勤講師を経て、2007 年より現職。専門はテキストデータの統計解析。



自席にて。向かい席の同僚は見えません。

学び実証的研究を実践した学生はこのテストで高い得点を獲得できて欲しいなと思います（確認したわけではありません）。

社会で活躍するために必要な能力について、心理学をしっかりと学ぶことが副次的にこのような能力の獲得・育成に結び付くことが確認・認識され、それをテストで客観的に評価することが一般的になれば、心理学を学ぶ皆さんの活躍の機会が今まで以上に広がることと思います。心理学を学んだ一人として、そのような日が来ることを願ってやみません。